

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当第1四半期連結会計期間における生産実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	生産高（百万円）
機械加工品	34,526
電子機器	40,873
合計	75,399

- (注) 1. 金額は、販売価格によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3. 上記の金額は、セグメント間取引の相殺消去後の金額であります。

(2) 受注状況

当第1四半期連結会計期間における受注状況を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	受注高（百万円）	受注残高（百万円）
機械加工品	32,909	54,343
電子機器	39,606	22,817
合計	72,515	77,160

- (注) 1. 金額は、販売価格によっております。
2. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
3. 上記の金額は、セグメント間取引の相殺消去後の金額であります。

(3) 販売実績

当第1四半期連結会計期間における販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高（百万円）
機械加工品	33,253
電子機器	40,787
合計	74,041

- (注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
2. 上記の金額は、セグメント間取引の相殺消去後の金額であります。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態及び経営成績の分析】

(1) 業績の状況

当第1四半期連結会計期間（自平成20年4月1日至平成20年6月30日）のわが国経済は、個人消費は減速の兆しを見せ、輸出は減少に転じ、エネルギー・原材料価格高の影響等により企業の景況感も悪化し、設備投資にも鈍化の兆しが見られる等、先行きの不透明な状況で推移しました。米国経済は、住宅市場における調整の強まりや金融環境の大幅な悪化等を受けて停滞し、欧州経済も緩やかな減速基調を辿りました。一方、中国経済は、依然として輸出と固定資産投資の増加により高い経済成長を続け、その他のアジア諸国の経済も総じて堅調に推移しました。

当社グループは、かかる経営環境下で、収益力の更なる向上を実現するために、徹底したコスト削減、高付加価値製品と新技術の開発及び拡販活動に注力してまいりましたが、為替変動（円高）等により売上が減少し、原材料価格の高騰と併せて収益的にも厳しい状況が続きました。

この結果、売上高は74,041百万円と前第1四半期連結会計期間に比べ7,725百万円の減収（△9.4%）、営業利益は5,083百万円と前第1四半期連結会計期間に比べ2,032百万円の減益（△28.6%）、経常利益は4,685百万円と前第1四半期連結会計期間に比べ1,567百万円（△25.1%）の減益となりました。また、退職年金制度の移行に伴う特別損失374百万円を計上したことから、四半期純利益は2,635百万円と前第1四半期連結会計期間に比べ498百万円（△15.9%）の減益となりました。

① 事業の種類別セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

機械加工品事業

機械加工品事業は、当社の主力製品であるボールベアリングの他に、主として航空機に使用されるロッドエンドベアリング、ハードディスク駆動装置（HDD）用ピボットアッセンブリー等のメカニカルパーツ、自動車及び航空機用のねじ、並びに防衛関連製品であります。前第1四半期連結会計期間に比べ、主力製品であるボールベアリング、ロッドエンドベアリングの販売は好調に推移しましたが、円高の影響で売上金額が減少しました。ピボットアッセンブリーは、主要な販売先であるハードディスクへの販売数量は増えたものの円高の影響により売上は横ばいとなりました。この結果、売上高は33,253百万円と前第1四半期連結会計期間に比べ2,273百万円

（△6.4%）の減収となりました。営業利益は、基礎技術・製品技術・製造技術の追求に努め、継続的な原価低減をはかりましたが、原材料費の上昇や主力生産拠点であるタイ、中国の通貨高の影響もあり5,583百万円と前第1四半期連結会計期間に比べ1,016百万円（△15.4%）の減益となりました。

電子機器事業

電子機器事業は、情報モーター（ファンモーター、ステッピングモーター、振動モーター及びブラシ付DCモーター）、HDD用スピンドルモーター、PC用キーボード、スピーカー、液晶用バックライト、インバーター、並びに計測機器が主な製品であります。前第1四半期連結会計期間に比べ、計測機器及びインバーターは新市場開拓等により売上が増加しました。一方、情報モーターをはじめとした各種モーターが、円高の影響により売上が減少しました。中でもHDD用スピンドルモーターは顧客の在庫調整の影響から大きく減少しました。また、FDDヘッド及びMODも事業終息により減少しました。この結果、売上高は40,787百万円と前第1四半期連結会計期間に比べ5,453百万円（△11.8%）の減収となりました。営業利益は、売上高の減少に伴い500百万円の損失と前第1四半期連結会計期間に比べ1,015百万円の悪化となりました。

② 所在地別セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

日本地域

日本地域は、一部のモーター及び電子デバイス関連を除き総じて低迷し、売上高は16,299百万円と前第1四半期連結会計期間に比べ2,561百万円（△13.6%）の減収となりました。営業利益も980百万円と1,377百万円（△58.4%）の減益となりました。

アジア地域（日本を除く）

アジア地域は、高成長を続けている中華圏を含み、多くの日本、欧米等のメーカーの生産拠点として重要な地域であります。売上は円高の影響及びスピンドルモーターの販売減少により低調に推移しました。この結果、売上高は36,590百万円と前第1四半期連結会計期間に比べ4,142百万円（△10.2%）の減収となり、営業利益も2,688百万円と434百万円（△13.9%）の減益となりました。

北米地域

北米地域は、米国生産の航空機用ボールベアリング及び航空機関連業界等向けのロッドエンドベアリングが、堅調な需要に支えられ好調に推移しましたが、円高の影響により前第1四半期連結会計期間に比べ売上が減少しました。また、高付加価値製品に特化を進めているキーボードの売上も減少しました。この結果、売上高は11,825百万円と前第1四半期連結会計期間に比べ1,917百万円（△13.9%）の減収となり、営業利益は927百万円と351百万円（△27.5%）の減益となりました。

欧州地域

欧州地域は、緩やかな景気減速基調の中で、ボールベアリング及びロッドエンドベアリング等が堅調に推移しました。この結果、売上高は9,325百万円と前第1四半期連結会計期間に比べ895百万円（10.6%）の増収となり、営業利益も486百万円と129百万円（36.1%）の増益となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当社グループは、「財務体質の強化」を主要な経営方針とし、総資産の圧縮、設備投資の抑制及び負債の削減等を進めております。

当第1四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は22,510百万円となり、前連結会計年度末に比べ770百万円の減少となりました。

当第1四半期連結会計期間の各活動におけるキャッシュ・フローの状況は、次のとおりであります。

営業活動では、税金等調整前四半期純利益、減価償却費及び売上債権の減少等により8,114百万円の収入となりました。投資活動では、主に有形固定資産の取得により4,233百万円の支出となりました。また、財務活動では、短期借入金の返済及び配当金の支払等により5,567百万円の支出となりました。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結会計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

また、当社は財務及び事業の方針の決定を支配する者の在り方に関する基本方針を定めており、その内容等（会社法施行規則第127条各号に掲げる事項）は、平成20年6月27日提出の第62期有価証券報告書に記載のとおりであります。なお、内容等についての変更はありません。

(4) 研究開発活動

当第1四半期連結会計期間におけるグループ全体の研究開発活動の金額は、2,495百万円であります。

なお、当第1四半期連結会計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。